

2025年3月31日

関係者 各位

文部科学省日本語教師養成・研修推進拠点整備事業(近畿ブロック)
外部評価委員会 委員長 李在鎬

**文部科学省日本語教師養成・研修推進拠点整備事業(近畿ブロック)の
2024年度事業にかかる外部評価結果の通知**

文部科学省日本語教師養成・研修推進拠点整備事業(近畿ブロック)の2024年度事業に関して、提出された資料、公開されている資料、ヒアリング、および、実地視察をふまえ、専門的見地から判断を行った結果、以下の評価とする。

事業趣旨に照らし、期待される水準の業務がなされている

なお、次年度に向けた課題については、各委員による評価レポートを参照されたい。

日本語教師養成・研修推進拠点整備事業(近畿ブロック) 2024 年度評価書
迫田 久美子(広島大学/国立国語研究所)

【事業全般にかかる評価】

(1) 近畿ブロックの 2024 年度事業における評価できる点について

近畿ブロックの特徴として、人的交流と機関によるネットワークの構築を挙げる。近畿ブロックは他の地域より1年遅れてスタートしているが、その遅れを取り戻すだけでなく、広い地域の多くの機関を取り込み、近畿ブロックにおける巨大ネットワークを構築し、勢いをつけて事業展開を実施している点を高く評価したい。特に、教育機関も大学や日本語学校だけでなく、財団法人や行政などにも働きかけ、構成機関やメンバーリストから幅広い人的交流の基盤作りに成功している。

もう一つの特徴として、4つの部会による綿密でかつ広範囲な事業の展開がある。近畿ブロックでは、①連携部会 ②研修部会 ③調査部会 ④支援部会が設置され、どの部会もメンバーが 10~28 人と非常に多くの人に関り、それぞれのニーズに沿った取り組みを企画、実践しており、マンパワーの威力が感じられる。

(2) 近畿ブロックの 2024 年度事業における課題点と今後において

短期間で急速な事業展開には、目を見張るものがあるが、反面、各部会での綿密な話し合いや問題点の掘り起こし、また4つの部会から全体の協議会で共有し合えているのか不安を覚える。広範囲の課題を多くの人で議論することで、表面的な問題提起や議論で終わらせないような工夫が求められる。

【実地視察に基づく評価】

(3) 近畿ブロックの 2024 年度協議会の企画運営における評価できる点について
一言でいうと、人的ネットワークによる企画力と組織力を高く評価したい。22 日のシンポジウムに関して述べると、前半では学生向けのイベントで学生達のポスター発表や現場日本語教員の学生へのエール、後半では三者の立場から本事業の根幹を支える国の取り組みに関する講演が行われ、44 人の発表者に 130 人の参加者という成果を得ている。秀逸な企画力に多くのメンバーの連携による結果であると評価する。

(4) 近畿ブロックの 2024 年度協議会の企画運営における課題点と今後において

多人数の中で一つひとつのプログラムを円滑に進めるためには、仕方がない面もあるが、各テーブルで振り分けられた参加者たちの議論が、5 分・10 分とか区切られており、十分にできなかった面が残念である。

【その他】

(5) 特記事項ほか

残された期間で日本語教育に関わる多様な問題を取り上げて議論できるか、若手と経験者とのように巻き込んで事業を展開していくか、期待したい。

日本語教師養成・研修推進拠点整備事業(近畿ブロック) 2024 年度評価書
松下 達彦(国立国語研究所/総合研究大学院大学)

【事業全般にかかる評価】

(1) 近畿ブロックの 2024 年度事業における評価できる点について

参加機関が多く、大学、日本語学校、行政系機関などを幅広く組織化している点は、他ブロックと比較しても進んでいる。また、ウェブサイト各部会の議事録などの多くの情報を公開し、透明性の高い運営を心掛けていることは高く評価される。発信内容は他のブロックの参考になるものである。

(2) 近畿ブロックの 2024 年度事業における課題点と今後に向けて

現在でも連携は進んでいるが、まだ一層の連携の推進が可能だと思われる。教員志望者、認定を目指す機関のための支援を発展させ、新しい機関、人を呼び込むことに力を入れてほしい。また、児童・生徒支援のための、学校教育関係者へのアプローチや、就労・ビジネス関係で日本語教育を担う機関や人との連携など、一層の広報やネットワーク化が期待される。オンラインと対面をうまく使い分けた効果的な運営を進めてほしい。また AI 翻訳の普及による言語学習の目的・実態の変化を見通した事業も展開してほしい。事業評価の観点からは、政策評価として示せるエビデンスを検討してほしい。例えば日本語教育人材の増加率、単位人口あたりの各種認定機関数など、数値目標の設定も可能であろう。内容的には学習者の各種分野への定着率や満足度なども考えられる。記述的な評価と併せて数値による評価の検討も進めてほしい。

【実地視察に基づく評価】

(3) 近畿ブロックの 2024 年度協議会の企画運営における評価できる点について

午前の学生参加の取り組みや日本語学校関係者のトークは素晴らしかった。日本語教育を目指す学部生・院生にはよい情報発信であった。午後も学生、教員、実践研修や教員養成の認定機関を目指す関係者に役立つような情報がたくさんあり、実質的な波及効果の期待できるイベントであった。

(4) 近畿ブロックの 2024 年度協議会の企画運営における課題点と今後に向けて

素晴らしいイベントで、特に課題は見当たらなかったが、他ブロックからの参加者もあったので、ブロック間の交流機会なども設けられたら全国的にも刺激になると思われる。

【その他】

(5) 特記事項ほか

日本語が母語でない人が一層活躍できる社会に変えないと、経済・産業も、教育や医療などの各種サービスも、回らなくなっていく。その意味で、若い人を多く巻き込むアプローチは、他地域にも広げるべきアイデアである。人材の必要なジャンルはいろいろあるが、日本語教育は今後の日本社会を支えるうえで最も重要なポイントの一つだという認識を共有したい。

日本語教師養成・研修推進拠点整備事業（近畿ブロック）2024年度評価書
李在鎬（早稲田大学）

【事業全般にかかる評価】

(1) 近畿ブロックの2024年度事業における評価できる点について

役割が明確に定義された4つの部会（連携部会、研修部会、調査部会、支援部会）で構成されている点、高く評価できる。特に、調査部会が設置されており、2025年夏までにアンケート調査に基づく実態把握が予定されているが、調査部会で明らかになった点を踏まえ、研修部会で具体的な研修をデザインし、実施すること、そして、その研修の成果を支援部会が受け取り、具体的に支援に結び付けていくような関係性の構築を期待する。

(2) 近畿ブロックの2024年度事業における課題と今後に向けて

2024年度は初年度の体制整備という目的もあり、連携部会のリーダーシップのもとで事業が展開されたものと推測しているが、今後は連携部会をハブ機能に特化させて人員面でのスリム化を図り、調査部会と支援部会を拡充させるなど、事業の進捗に応じた規模の調整を検討してほしい。

【実地視察に基づく評価】

(3) 近畿ブロックの2024年度協議会の企画運営における評価できる点について

近畿地方ならではの活発な対話が随所で展開され、情報量が豊富なシンポジウムとなっていた点は高く評価できる。特に日本語教育を学ぶ学生、教育機関で働く教師、日本語教育の研究者、政策を決定する行政担当者が一つの場に集まり、本音で意見交換できる場を作った点で、公開シンポジウムとして十分な役割を果たしたと考えられる。

(4) 近畿ブロックの2024年度協議会の企画運営における課題と今後に向けて

「日本語教育の参照枠」や「CEFR」については、参加者の背景によっては理解度に差が生じることもある内容なので、イベントの前後に小規模な勉強会や、学習内容を振り返る場を設定すると、参加者間の理解度の差を縮めることができたのではないかと思う。

【その他】

(5) 特記事項ほか

対面のイベントは実施者の負担が大きいため、オンライン会議システムなどを活用した小規模なイベントや研修会など、より負担の少ない方法も積極的に検討してほしい。